

「掛け替えのない今日」

40 手前にもなって、私は未だに朝が苦手です。夜は早く寝た方が良く、と言うことは、もうこれは私が保育園のころから言われ続けていることです。もちろん、よく分かっているつもりです。けれど、大人になって仕事をし、家族を得て、生活をする中で、夜って貴重な時間ですよ。作業するにしても、趣味をするにしても、リラックスするにしても、家族が寝静まった後の方が、都合が良いことが多いです。そういう意味では、先日、私の家族が、私を残して沖縄に行ったことは、非常に得難い経験であったかと思えます。暴風雨だった毎日が、パッと風が変わる、そんな感じでした。まあ、その風の期間が、あまりにも長いと、今度は、暴風雨が恋しくなるのだとは思いますが・・・ともあれ、大人になっても、いや、大人になったからこそ、一人の時間が欲しくて、夜更かしをしてしまい、そして、夜更かしをしたなら、朝起きるのがつらいという、あまり頭が良いとは言えない私の日常のお話です。

神様に感謝する理由は、様々あるかと思いますが、私の理想は、毎朝気持ち良く起床して、「今日も新しい一日をありがとう、神様」と祈ることです。朝が苦手な私には、この感謝の祈りは、かなりハードルが高くて、なかなか素直に祈ることができません。もちろん、幼稚園の朝礼では、立场上、そう祈るわけですが、内心、昼と夜の割合が、夜多めに傾かないかなと思っています。だから、神様にとって、私と言う信仰者は、つまらないヤツだと思います。神様がせっかく用意してくださった、新しい 1 日に対して、喜んで臨んで行かないわけですから、張り合いのない信仰者です。今日という 1 日は、特別な 1 日です。その日が、日曜日だろうと、月曜日だろうと関係なく、1 日 1 日は貴重です。たとえ、「単調な毎日」と思えたとしても、その単調であることの理由は、

そう感じている自分自身の中にあるのだと言えます。神様から与えられた「掛け替えのない今日」を単調かつ退屈な 1 日にするのか、それとも、驚きと発見に満ちた張り合いのある 1 日にするのか。それは、私たちの過ごし方次第と言えるでしょう。

通勤途中に空を見上げて、雲の流れや、遠くに見える山の緑に目を留めてみるとか、街を歩いていて道端に咲いている花に気付いてみるとか、家の中にいる時に「この家具はもっとこっちにあった方が便利なんじゃないか」と思って模様替えを考えてみるとか。些細なことですがけれども、意外に、日々の張り合いの切っ掛けを創り出すことは簡単です。要するに、いつも必要とされている行動や働きに対して、無駄なことをしてみる、ということです。「無駄なことをする」というのは、これ実は大事なことです。「無駄なこと」と言うのは、自分が歩んできた過去にも、自分が思い描く未来にも、何ら役に立たない、その一瞬にだけ作用する、特別なことです。しかし、この「無駄なこと」が、人生には必要だと思えます。あれもしなきゃ、これもしなきゃ。午前中に書類仕事を片付けて、午後は明日の会議と契約書の準備をして、帰りには夕飯と朝ご飯の買い出しと、帰ったら早くご飯を作って洗濯をして、寝る前には、やりかけの資料に目を通して……。そうしないと仕事が回らないとか、人に迷惑をかけるとか、そういう事情から、日々を忙しく生きる他ない状況になることもありますが、そんな日々の中に、誰かの為とか、何かの為とか、そういう理由を持たない「無駄なこと」を差し込んでみる。車を留めて空を見上げるでもいいですし、敦賀はせっかく海の街ですから、海の見えるところまで行って、波の音を聞くのもいいでしょう。道端に小さな花を見つけて、ことさらに愛でる必要はありませんが、なんでこんなところに咲いているんだろう、と意味のない考えに耽ってみるのも良いと思えます。別に家のタンスや棚をちょっと動かしたところで、人生が途端に豊かになるわけではありませんが、今までとちょっとだけ違う景色になるだけで、案外新鮮な気持ちになるものです。

真面目で誠実に生きるからこそ、私たちは「誰かの為」「何かの為」に、自分の貴重な時間を用いています。もちろん、そうすることで自分にも利益があると思って、納得して、そうしているわけですが、でも、時には、神様に愛されている自分のためだけに、貴重な時間を費やしてみるのも、悪くないと思います。

今日と言う1日は、掛け替えのないものです。同じような1日が続くとしても、それは、そう見えるだけで、1日1日は、過ぎてはもう取り戻すことのできない、貴重な賜物です。神様が、私たちのために用意してくださった掛け替えのない1日を、私たちは感謝して、丁寧に生きていくべきでしょう。未来を見据えて、今に求められていることを律儀に熟すのも大事です。けれど、そうすることで、まさに今日与えられている神様の恵みに気付けないなら、それは悲しいことです。神様にとっては、未来の1日も、今日と言う1日も、同じだけの価値のある尊い1日です。「明日の自分」のために「今日の自分」を犠牲するのは、神様の御心ではないと思います。今日の出会、今日の発見、今日の驚き、今日の失敗、今日の喜び、今日の反省などなど、見逃さず、アンテナを張って、一つ一つの出来事を味わってみる。そして、見つけた瑣末なことの背後にも、神様の配慮があり、導きがあり、恵みによって満たされていることを感じてみる。すると、存外、世の中は上手く回っていて、意外にも自分の周りには幸せなことが多い、と、もしかしたら気付くかも知れない。明日のことを思い悩む日々では気付けない、今日の幸せを感じることもできないかも知れない。

イエス様が生きた時代は、今よりも気楽で安泰だったから、そのような御言葉が語られたわけはありません。大国による支配と、そこからの独立を目指す緊迫した状況が背景にあり、現代のような高度な医療福祉制度や治安維持制度はありませんでした。現代における「思い悩む」理由は、イエス様の時代にも存在し、むしろ、その度合いは、イエス様の時代の方が高かった、酷かったと言えるでしょう。苦悩と困惑のレベルは、今以上であったと思って、この聖書箇所は読むべきです。

でも、だからこそ、なんです。「思い悩む」理由に事欠かない時代であり、世相であり、人生だからこそ、今日、目の前にある幸せや恵みに気付いていこうじゃないか、と。もちろん、明日に備えないわけじゃありません。ただ、明日への備えで、今日を使い切ってしまうわない、ということです。未来のために今を犠牲にしないのです。神様が与え下さった1日1日を感謝して、喜んで生きていく。多分、そう心に留めて過ごすだけで、見慣れた日常の風景は、ちょっと変わってくると思います。もう、単調な毎日なんて言えないでしょう。

今日から再び新しい1週間が始まります。「再び」と言いましたが、この1週間は、まだ誰も過ごしたことの無い、天地創造の時から数えて、史上初めてやってくる「新しい1週間」です。まあ、大げさに言えば、ですけど。でも、それくらいの勢いで、未知の領域に踏み込んで冒険するくらいの心積もりで、目に映り、肌を感じ、耳に聞こえてくる一つ一つの出来事を丁寧に受け取って参りましょう。そして、その背後にあって、この世界と、私という存在を支え導いてくださる神様の御働きに心を留めて参りたいと思います。私たちのために、今日も掛け替えのない尊い1日を備えてくださった神様に感謝して、最後にお祈りを致します。

神様。

今日も、私たちに新しい1日をお与えくださり、心から感謝致します。あなたの導かれる毎日は、一つとして同じものはなく、繰り返さず、あなたの定められた終わりの日に向かって、滞りなく紡がれていきます。私たちは、そのような日々の中で生かされ、恵まれ、幸いを与えられ過ごしています。どうか神様、忙しなく日々を過ごす私たちに、今日与えられている恵みに気付く心と、そのための余裕をお与えください。生き急ぐのではなく、あなたと共に歩む毎日をゆったりと楽しんで、感謝することができるよう、この世界が選び取る時間を、もう少しゆっくりにしてください。すべ

ての人たちが、鳥のように、花のように、あなたへの信頼の内に、穏やかな日々を送ることができ
ますように。

この祈りを、我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。

6月誕生者の祝福祈祷

聖書：詩編 71 編 14～18 節

14 わたしは常に待ち望み／繰り返し、あなたを賛美します。15 わたしの口は恵みの御業を／御
救いを絶えることなく語り／なお、決して語り尽くすことはできません。16 しかし主よ、わたし
の主よ／わたしは力を奮い起こして進みいで／ひたすら恵みの御業を唱えましょう。17 神よ、わ
たしの若いときから／あなた御自身が常に教えてくださるので／今に至るまでわたしは／驚くべ
き御業を語り伝えて来ました。18 わたしが老いて白髪になっても／神よ、どうか捨て去らないで
ください。御腕の業を、力強い御業を／来るべき世代に語り伝えさせてください。

神様。

私たちは、6月最初の聖日に、こうして6月生まれの方々のことを憶えて祈りを合わせています。

あなたは、私たちが母の胎内にいる時から、私たちのことを見つけ、今に至るまで導いてください
ました。この6月生まれの方々も、それぞれの人生において、あなたのことを知り、あなたに導か

れてきたことを受け入れて、主と共に歩むものとされました。どうか、あなたを見上げ、その御心に従おうとされる方々を豊かな祝福で満たしてください。また、誰であれ、人は一人では生きてはゆけません。6月生まれの方々も沢山の人の支えられ、今という時間を歩んでおられます。この方々の周りにいる掛け替えのないご家族、ご友人の上にもあなたの恵みが注がれますように。それぞれの誕生の日から始まる、1日1日が、あなたと共にあって恵まれた日々となりますように。

この感謝と願い、尊き主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。